

- 問1 平安時代中期に貴族の間で発達した「国風文化」における生活様式の変化について、建築と衣服の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 建築では仏教儀式を独占するための寺院建築のみが発達し、衣服では庶民と同じ麻布の着物が推奨された。 | 2. 建築では日本特有の寝殿造が、衣服では男性の正装である束帯や女性の十二単などが用いられるようになった。 | 3. 建築では大陸の様式をそのまま取り入れた壮大な石造建築が、衣服では活動的な胡服が主流となった。 | 4. 建築では禅宗の影響を受けた書院造が、衣服では武士の礼装である直垂や素襖が一般的となった。 |
|---|---|---|---|
- 問2 現在の十円硬貨にもデザインされている、京都府宇治市に位置する平安時代の建築物の特徴を正しく説明したものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 池の中央に建てられた阿弥陀堂を中心とし、左右に翼廊、背後に尾廊を持つ、左右対称の華麗な姿をしている。 | 2. 漆塗りの上に金箔を貼り巡らせた三層の楼閣建築で、庭園には全国の守護大名から献上された石が配置されている。 | 3. 急な斜面に突き出すように建てられた「舞台造」が特徴で、重厚な瓦屋根と巨大な柱で支えられている。 | 4. 二重の屋根を持つ金堂や五重塔が配置され、飛鳥時代の様式を伝える世界最古の木造建築物として知られる。 |
|---|---|--|--|
- 問3 平安時代中期の文化において、藤原頼通が平等院鳳凰堂を建立した目的や背景を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。 (2020年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 末法思想の広がりにより死後の救済を求める浄土信仰が流行したため、極楽浄土の様子を現世に再現しようとした。 | 2. 飛鳥時代に伝来したばかりの仏教を広めるため、大陸の建築技術を取り入れた世界最古の木造建築を建立した。 | 3. 戦国時代において、武士の威信をかけて築かれた城郭建築の一部として、外観の美しさと防御機能を両立させた。 | 4. 禅宗の影響を受け、質素で落ち着いた趣を重視する東山文化を象徴する建物として、自身の別荘を寺院に改めた。 |
|---|---|--|--|
- 問4 日本の歴史における仏教寺院の立地について、最澄が建立した天台宗の本山である延暦寺の所在地を説明したものとして正しいものを選びなさい。 (2021年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 瀬戸内海から九州方面へ向かう海沿いの地域に位置している | 2. 近畿地方の中央寄りに位置し、滋賀県と京都府の境界付近にある | 3. 関東地方の広大な平野の中に位置し、交通の要衝となっている | 4. 東北地方の北部に位置し、当時の政治の中心地から遠く離れている |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
- 問5 平安時代末期、白河上皇が始めた「院政」から「平治の乱」へと至る歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 空海が建立した金剛峯寺などの仏教勢力が政治に介入したため、上皇はこれに対抗するために源義朝ら武士団を動員して寺院を制圧させた。 | 2. 平治の乱で敗北した源義朝が、院政の仕組みを批判して鎌倉に幕府を開いたことにより、平安時代の摂関政治が完全に崩壊した。 | 3. 上皇が摂政や関白の勢力を抑えて政治の実権を握るために、自身の警護や軍勢力として武士を重用したことが、武士の政治的地位を高める要因となった。 | 4. 藤原純友などの武士団が瀬戸内海で反乱を起こしたため、朝廷は武士の影響力を排除するために院政を開始し、天皇親政を復活させた。 |
|--|---|--|--|
- 問6 平安時代末期の東北地方において、産出される金や北方貿易による経済力を背景に、平泉を中心に独自の文化を栄えさせた一族の名前と、その拠点となった地名の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|----------|-------------|-----------|
| 1. 北条氏と小田原 | 2. 源氏と鎌倉 | 3. 奥州藤原氏と平泉 | 4. 平氏と六波羅 |
|------------|----------|-------------|-----------|
- 問7 平安時代後期、奥州藤原氏が平泉に中尊寺などの寺院群を建立した背景や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 聖武天皇の命により、東北地方の安定を図るための国分寺として建立されたため | 2. 源頼朝の軍勢による攻撃を阻止するため、要塞としての機能を持つ巨大な寺院を建設したため | 3. 前九年・後三年合戦による戦没者を弔い、浄土思想に基づく平和な社会を築くことを願ったため | 4. 平清盛が推進した日宋貿易に対抗し、東北独自の金輸出ルートを確立するための象徴としたため |
|---|---|--|--|
- 問8 平安時代の政治において、藤原氏による摂関政治が全盛期を迎えていた時期の社会背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。この時期には、1053年に建立された平等院鳳凰堂に代表されるような、極楽浄土を願う信仰も広まりました。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|---|---|--|
| 1. 武士が政治の実権を握り、素朴で力強い文化が東国を中心に広まった。 | 2. 大陸文化の影響を消化し、かな文字による文学や日本独自の美意識が反映された文化が発展した。 | 3. 遣唐使を通じて唐の進んだ制度や仏教文化を積極的に取り入れ、国際色豊かな文化が形成された。 | 4. 禅宗の影響を強く受け、水墨画や茶の湯などの簡素な美しさを尊ぶ文化が形成された。 |
|-------------------------------------|---|---|--|
- 問9 摂政・藤原道長の子である藤原頼通は、京都の宇治に阿弥陀堂を建立しました。池の中島に建てられ、屋根の上に鳳凰が据えられたこの「平等院鳳凰堂」という建築物は、当時のどのような思想や背景を反映して造られたと考えられますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 武士が政治の実権を握り始めたため、質素で力強い建築様式を民衆に示そうとした | 2. 日本全国に仏教を広めるための拠点として、地方から役人呼び寄せの講堂として活用しようとした | 3. 遣唐使が廃止されたことで、大陸の影響を完全に排除した日本独自の寺院様式を確立しようとした | 4. 浄土信仰に基づき、人々が憧れた極楽浄土の様子をこの世に再現しようとした |
|--|---|---|--|
- 問10 平安時代、藤原氏は長年にわたって政治の実権を握りましたが、彼らが権力を維持するために用いた最も主要な政治的手法として正しいものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 大陸の進んだ律令制度を導入し、天皇を中心とした公地公民の原則を徹底させることで官僚機構を支配する手法 | 2. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子を次の天皇に立て、天皇の母方の親戚（外戚）として政治を行う手法 | 3. 地方の武士団と結びついて軍勢力を背景に天皇を圧迫し、武力によって幕府を開くことで政治を主導する手法 | 4. 仏教の教えを政治の柱とし、全国に国分寺を建立することで民衆の支持を集め、宗教的な権威によって統治する手法 |
|---|---|--|---|
- 問11 平安時代に発達した建築様式である「寝殿造」について、その成立の背景や特徴を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 江戸時代に幕府が身分制度を確立した際、貴族の権威を示すために格式高い装飾を施した様式として考案された。 | 2. 室町時代に禅宗が広まったことで、精神修行に適した簡素で機能的な空間を追求して生まれた。 | 3. 遣唐使の停止によって大陸との交流が制限されるなか、日本の気候や貴族の好みに合わせた独自の文化として成立した。 | 4. 鎌倉時代に武士が力を持つようになり、実用性と機能性を重視した住居として全国に普及した。 |
|--|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 建築では日本特有の寝殿造が、衣服では男性の正装である束帯や女性の十二単などが用いられるようになった。	国風文化の時代、生活のあらゆる面で日本風の形式が整えられました。建築様式では、風通しを考慮した「寝殿造（しんでんづくり）」が貴族の住宅として定着し、衣服においても、日本の気候に合わせて重ね着をする「束帯（そくたい）」や「十二単（じゅうにひとえ）」といった貴族独自の装束が完成しました。これらは、中国の模倣ではなく日本の生活環境に適応させた結果です。
問2	答え 1 池の中央に建てられた阿弥陀堂を中心とし、左右に翼廊、背後に尾廊を持つ、左右対称の華麗な姿をしている。	平等院鳳凰堂は、阿弥陀如来が住む極楽浄土の宮殿を模して造られました。大きな池の中に島を設け、そこに建物を配置することで、水面に建物が映り込むように設計されています。この左右対称の美しい構造は、当時の貴族が好んだ寝殿造の影響を強く受けており、当時の高度な建築技術と美意識を現代に伝えています。
問3	答え 1 末法思想の広がりにより死後の救済を求める浄土信仰が流行したため、極楽浄土の様子を現世に再現しようとした。	1052年は末法の第1年目にあたるとされ、社会的な不安から浄土信仰が急速に浸透しました。藤原頼通はその翌年、父の道長から譲り受けた別荘を寺院に改め、阿弥陀堂（鳳凰堂）を建立しました。池のほとりに建てられた優美な姿は、当時の貴族が憧れた極楽浄土の宮殿を模したものとされています。
問4	答え 2 近畿地方の中央寄りに位置し、滋賀県と京都府の境界付近にある	延暦寺が置かれた比叡山は、広域的な地域区分では近畿地方に該当します。滋賀県と京都府の県境付近という、当時の都であった平安京から見て北東（鬼門）の方角に位置していたことが、この地に建立された歴史的な要因の一つです。
問5	答え 3 上皇が摂政や関白の勢力を抑えて政治の実権を握るために、自身の警護や軍勢力として武士を重用したことが、武士の政治的地位を高める要因となった。	白河上皇が始めた院政では、それまで政治を主導していた藤原氏（摂関家）の力を抑える必要がありました。上皇は自身の直属の武力として「北面の武士」などを組織し、平氏や源氏を重用しました。この結果、皇位継承や朝廷内の対立が起こった際に武士の軍勢力が不可欠となり、保元の乱や平治の乱を経て、最終的に武士が政治の実権を握る時代へと移行していきました。
問6	答え 3 奥州藤原氏と平泉	陸奥国（現在の東北地方）では、11世紀末から12世紀にかけて奥州藤原氏が勢力を拡大しました。彼らは京都の文化を吸収しつつ、平泉を拠点に中尊寺や毛越寺などを建立し、仏教の教えに基づく平和な理想郷を目指しました。これら平泉の文化遺産は、その歴史的価値から世界文化遺産にも登録されています。
問7	答え 3 前九年・後三年合戦による戦没者を弔い、浄土思想に基づく平和な社会を築くことを願ったため	奥州藤原氏の初代清衡は、自身の家族を失うほどの激しい戦乱（前九年合戦・後三年合戦）を経験しました。その惨劇を繰り返さないよう、すべての死者を平等に供養し、現世に仏の理想郷を実現しようとした。この「浄土思想」が平泉の文化形成の大きな背景となっています。
問8	答え 2 大陸文化の影響を消化し、かな文字による文学や日本独自の美意識が反映された文化が発展した。	摂関政治の全盛期は国風文化の円熟期にあたります。この時期、紫式部による『源氏物語』や清少納言による『枕草子』といった、かな文字を用いた文学作品が誕生しました。また、建築面では阿弥陀如来を祀る平等院鳳凰堂が建立されるなど、日本の風土に根ざした貴族文化が花開きました。
問9	答え 4 浄土信仰に基づき、人々が憧れた極楽浄土の様子をこの世に再現しようとした	平等院鳳凰堂は、当時盛んであった浄土信仰の集大成ともいえる建築物です。貴族たちは末法思想による不安から、死後の救済を強く願っていました。そのため、藤原頼通は阿弥陀如来像を安置した豪華な阿弥陀堂を、池を中心とした美しい庭園の中に配することで、経典に描かれた「極楽浄土」の世界を具体的に表現しようとしたのです。これは平安時代の国風文化を象徴する出来事でもあります。
問10	答え 2 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子を次の天皇に立てて、天皇の母方の親戚（外戚）として政治を行う手法	藤原氏は、自分の娘を天皇のきさきとして送り込み、生まれた皇子を次の天皇に即位させることで、天皇の「外祖父（母方の祖父）」という立場を築きました。この血縁関係を基盤に、天皇が幼少のときには摂政、成人してからは関白という役職に就いて政治を独占しました。これを摂関政治と呼びます。
問11	答え 3 遣唐使の停止によって大陸との交流が制限されるなか、日本の気候や貴族の好みに合わせた独自の文化として成立した。	894年に遣唐使が停止された後、それまでの中国文化を消化・吸収した上で、日本の風土や生活習慣に合わせた「国風文化」が形作られました。住居においても、中国風の堅苦しい形式から離れ、貴族の優雅な生活や日本の気候に適した「寝殿造」という独自の様式が生まれ、定着していきました。